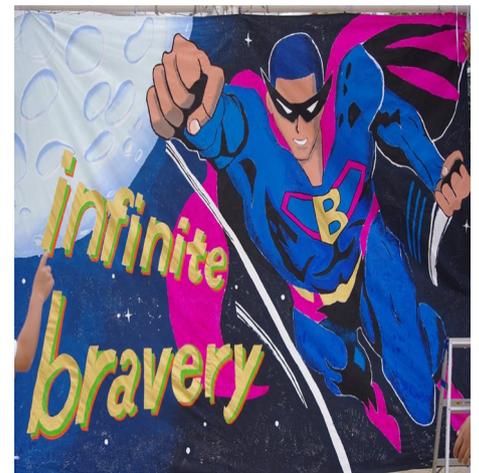




## 夢追人 2号 太宰府中学校

体育祭後の「今」こそ、「言葉」を大切に生活しよう！  
—いじめにつながる言葉、人を傷つける言葉を使っていませんか？—



体育祭は、あなたたち一人一人の「一生懸命」によって、素晴らしい一日を終えることが出来ました。『太宰府中の生徒は、やれば出来る！』を実感した一日でした。そして、やがて6月を迎えます。学校の1年間は、この6月で決まるといってもいいと思います。この6月をいい加減に過ごすか、この6月を力いっぱい過ごすかで、来年3月の皆さんの姿は大きく違ってくると思うのです。ならば、『今』こそ、太宰府中が今こそ総力を挙げて取り組むべき事。それは、一人一人が『言葉の大切さ』に気づき、感じ、そして正しい行動をすることです。『今』、みんなで取り組めば、必ず安心、安全な学級が創れます。安心、安全な学級だから、みんなが自由に発言できる授業が創り出され、学校生活もきっと充実します。以前、福岡県の中学生だった一人の生徒の発表を紹介します。

### 『勇気を』

それは誰でも経験したことがあるのではないのでしょうか？。考えてください。あなたの何気ない言葉に傷つき悩んでいる人はいませんか。これは尊い命が失われてからでは遅いのです。いじめ問題が大きくクローズアップされたのは、愛知で起きた中学生の自殺でした。「自分は、いじめられた」という遺書を遺して。それをきっかけに多くの人がこの世を去りました。みんな傷つけられ追いつめられていたのです。きっかけはきっと些細なことだったのかもしれませんが。

「気に入らない」、「むかつく」、「生意気！」など、そんなことからかもしれません。今のいじめは悪質で、先生や大人には絶対に気づかれないようにしています。そのために、なかなか表面化することはありませんでした。この異常な社会の中で、私たちの身近にもいじめがありました。福岡県内の中学生が自殺したのです。その人は、私たちの中学校にも練習試合で来ていたと聞くといいようのないむなしさを覚えました。では、私たちの中学校ではどうでしょうか。

以前、校長先生は朝礼で「我が校にはいじめはない」とおっしゃいました。そんなことをする生徒はいないだろうと、私たちを信じて言われたのだろうと思います。

でも、いじめは存在するんです。確かにあるんです。

私はよく知っています。自分自身だからです。

私はいじめられました。1年の時からずっと・・・。

本人たちはいじめではないと思うかも知れませんが、私はそのことで精神的にボロボロになりました。今も、その傷は深く私の心の中に残っています。ある雨の日、理科の授業で班をつくりました。雑談が多くなり、となりの班の話が私の悪口へ変わりました。

「あいつ汚いよな」「周りにいると臭い」「自分の醜さを知っているのか」など聞こえました。地獄の始まりでした。英語のペアになって読む時、班になって勉強する時、運動会やクラスマッチの時にも、私の声に耳をふさぎ、私に触れると手を洗い、毎日続くいじめに身も心も疲れ果てました。いつか自殺を考えるようになりました。

毎日、無視されバカにされ、上靴にガムを入れられ、机にマーガリンのかすをつけられたり毎日のです。毎日続けば誰だって死を考えるのではないのでしょうか。

その日々から逃れるのならば・・・。

でもこんな私を救ってくれたのは友だちでした。心配して先生に相談してくれました。「がんばろうね」と励ましてくれ肩をたたいてくれました。その結果、少しずついじめは消えていきました。中には謝ってくれた人もいました。

先生方、どうか私たちを見てください。今もどこかで傷ついている人がいるのです。訴えることをためらっていた私に、先生がそばにいてくれて、私に勇気をくれたように、他の傷ついている人たちにも勇気をください。

いじめを受けて傷ついている人がいるのならば、負けないで立ち上がってください。あなたが傷つきつづけることは間違いなのです。先生方や家族を信じてください。

そして、心ある皆さん、周りを見てください。あなたの何気ない言葉が人を死に追いやります。そんな私も、人を傷つけたことがあると思います。私も悪いところがあるかもしれません。相手の悪いところは注意してください。何も言わずにいじめに走ることは絶対におかしいことです。気に入らないと思う人の心の痛みを考えてください。無視され、バカにされれば誰でも傷つくのです。そんな当たり前のことをもう一度見直す時ではないのでしょうか？

ご静聴ありがとうございました・・・

## 太宰府魂

『勇気を』を読んで」

夢追人第2号に掲載した『勇気を』を読んでくれたでしょうか？この『勇気を』を読んで、生徒もそして大人も、何を感じるのでしょうか？。大切な生徒を育てるためにも、この『勇気を』を私たち大人がどのように受けとめ、そしてどのように目の前の生徒たちに伝えていくか！。それこそ大切なことだと思うのです。教室で夢追人を配布するだけの教師がいるかもしれません。教師としての思いを言葉に添えながら生徒に何かを伝えようとする教師がいるかもしれません。ご家庭でも様々だと思います。子供から受け取っても読んで終わりのご家庭、読んで、親として感じたことをしっかり子供に伝えるご家庭、この夢追人すら子供から受け取っていないご家庭・・・。でも私たち大人の使命こそ、生徒たちに『他者を大切にしたい心』だけはきちんと教え育てることだと思うのです。どんなに社会が変化しようとも、どんなに多様な価値観が広がろうとしても、『他者を大切にすること』だけは不変の教育だと信じています。太宰府中に限らず、どの学校でも、いじめにつながるような事象が日常的に発生しています。嬉しいことに、太宰府中の教師達は、その一つ一つを、決して見て見ぬふりをするのではなく、情報を共有しながら、真剣に且つ丁寧に対応しています。残念ながら学校の指導だけでは解決はしません。ご家庭の協力無くして解決はあり得ないのです。学校と家庭が両輪となって推進する『共育』を今後一層、推進していきたい・・・。生徒一人一人の未来が輝くために・・・